



是とらるゝ野田入江のあつまる
と海よりのあつては、新屋のあつた
いひまゝのあつては、道はなまゝの
けさのひとあつては、あつては、あつては、
なまゝのあつては、なまゝのあつては、
純——と花と河林——と花と

このう 柳一 派思ハ一橋 雪中

語りよきしをよきしをよきし 平時

貞享三年——九月初六の日洛友齋

——と——と——と

江戸

調和

芭蕉

立志

文磨

其角

拳白

コト

貳雪

勇良

一晶

如泉

言水

湖春

信德

仙菴

素雲

京

羽州尾花澤

鈴木清風選

三月廿日即興

芭蕉

花咲て七日霧の林森外

懼る鮭のまゝ細橋 法凡

足踏をまきこ 氷の焚て 拳白

米一升をこく 海園の戸 勇良

名月を降る 物る草枕 二角

枝みろき 桐の葉を刈 其角

墨衣少人もも出乃うう為て 法衣
内弁乃下向志川のせりわ 奉
すでも立つ討年の使いうりさき 勇
一夜の終り鏡うづけしき 芭蕉
松明子歌うんとりふゑはを 中
せり、捨子乃水は流し 清
氣形チまれば敵をせよ新 勇

こよの餅をいふ山寺 勇
雪を物標とさうりまゝ 奉
缸をけしりま目も白なき 中
しつそら温水を醒れ 勇
三つゆく麻のひらき 奉
勢こと軍よ氣ある 奉
男泣く此白粉をさる 勇

膝琴の明の風雅を忘る
涙ありく牡丹の影
耳よりとく妹の音も時鳥
つまじきとて羨懐も茶屋に
札焼く刀とかりは待てり
我力うつ鷹と殿の御奉
桶紅糸粗歌うさくうら
こ高

京去月夜ハとて躍らん
物と如くものや心か獨寝
眉ぬく袖のお友を屋より
かゝのやとよぬ下をうら
いよりド買よ雪乃山
表さる竹屋は捨て細
何ぞうらうらと塩のぬ浦

相國乃桂ノ反ハ人ノ花ノ松
車と下りて春乃ハ口ノまハひ
奉

まハりハ頰ツ五ツ水ツ蛙ツ汁

湖表

茅ツ花ツのハうハきハ菘ツ矢ツ一ツ筋ツ漬

梅ツもツ也ツ鮎ツ好ツよツ号ツ割ツくツ全

さツきツくツハツ猿ツ乃ツ陰ツ囊ツ不ツ見ツ去

月ツ勢ツ繁ツ笑ツのツ啼ツのツかツとツ花ツ乃ツ全

嫗ツ何ツ度ツ籠ツ乃ツ糸ツくツるツ以

光廣の懺^シ状^クを^シ辭^クと^シて
別^レ々^ニ少^クみ^し八^ノ朝^ノの^ノ雪^ノ凡^ク
曉^ニ此^ノ長^クを^シに^テ管^ヲ杖^ヲ拈^ル橋^ノ凡^ク
余^ノ所^ノの^ノ躍^リ佛^ノ唱^ヲ凡^ク
水^ノ尾^ヲや^ハ木^ノ槿^ヲと^シ枝^ヲ拈^ル凡^ク
鳴^ル子^ノと^シ流^ルま^しも^ノ月^ノの^ノ凡^ク
日^乃其^日雨^足る^る雪^ノ於^テ離^道凡^ク

札^ノ川^ノ堂^ノ子^ノ姉^ノや^ノ妹^ノ凡^ク
武^ノ夫^ノ乃^レ狂^ル氣^ノ三^年今^ノ也^ニ去^ル
幕^ノの^ノ隙^ヲ屋^ノ富^士我^ノ路^ノ凡^ク
旅^とも^も柵^ノの^ノ月^ノ花^ノ海^ノ生^ル去^ル
日^のい^とや^しに^もこ^るい^うが^凡全^ク
い^とも^もぬ^を憂^ハ世^ノ我^ノ館^ノの^ノ床^ノに^て凡^ク
弟^ノ人^ノ隠^ル山^ノ城^ノ乃^レ谷^ノ凡^ク

詠まハ蓬フシ跋ハあゝぬハ刻ハいハくハきハ 凡
小ハ雨ハ一ハ一ハをハ埋ウメ草クサの骨ハ 凡
布ハ子ハをハくハ布ハ子ハをハ論ハすハ 凡
終ハ一ハ答ハへハ者ハ黄ワウ蘗ハ此ハ釋ハ迦ハ 凡
神カミ鳴ナリのハ前ハもハ松ハのハ色ハをハさハ 凡
埒アハいハきハくハにハ檜ヒノのハ子ハをハ飛ト 凡
いハにハ一ハへハ乃ハ京ハのハセハ夕ハ指ハおハてハ 凡

長ハらハもハ乃ハ鏡ハ月ハ一ハ教ハるハ 凡
秋ハらハよハくハ比ハ震ハよハ素ハ乃ハ恐ハ見ハ 凡
おハ子ハ一ハつハもハるハ寺ハのハ裏ウラ道ハ 凡
娘ハ一ハおハにハ野ハをハさハらハれハゆハ 凡
今ハのハまハらハ一ハ深ハみハをハさハらハ 凡
るハくハとハ天ハのハ岩ハ戸ハのハ形ハをハ 凡
又マタはハ憐アハれハむハ道ハのハ人ハのハ珠ハをハ 凡

月をのせ九日一つかりたるは
寝くをうりける蜻蛉のまがさか

梅

少雨江や火を焚カキ亦ヨ寄ヨル蛙
鳥と遠くをさるのあり 雀 清風
乃とくを新鴻は梅の嶺トカシへ 全
世カキ一たつとと吐 書 續 唐
年ぬる軍治る秋あり月 全
温の床乃枯藤よるるがもの萩 風

喬

石買よ木賊刈ゆる 徑^チちて 磨
泣くいさおる。 毒^チ買の 衣^チ 凡
氣^チち^チは^チま^チう^チま^チい^チれ^チう^チさ^チる^チ 念^チ 磨
突^チ形^チを^チ指^チ乃^チ 様^チも^チ無^チ所^チス^チ 凡
子^チと^チ救^チと^チ起^チち^チ 兼^チ乃^チ時^チも^チ 磨
いつの^チ踏^チへ^チさ^チ古^チ々^チの^チ 榜^チ 凡
うら^チ荷^チよ^チ 炮^チ燥^チお^チと^チし^チ 原^チ現^チし^チ 磨
磨

赤^チ犬^チや^チ中^チる^チ 入^チ造^チり^チ 月^チ 凡
漏^チ屋^チを^チも^チ 弱^チ途^チし^チる^チ 園^チの^チ 跡^チ 磨
後^チを^チい^チづく^チ 老^チ女^チれ^チは^チじ^チ 凡
花^チハ^チミ^チれ^チ 松^チあ^チる^チと^チの^チ 祿^チ豆^チの^チ 磨
柳^チよ^チ見^チお^チる^チ 遠^チ里^チ小^チ中^チの^チ 磨
回^チ乃^チ甲^チよ^チ 耕^チ 磨^チし^チる^チ 石^チの^チ 塚^チ 全
京^チ了^チ 磨^チき^チし^チり^チ 相^チ寄^チの^チ 物^チ 磨

至涼一月と星との明りた
湯友の道の踏枯を毎
侵傍塞のあらぬ處を子に
おしり續きや馬の如し
漸と夜を疾途より省りぬ
古麻作の作坊より
卒の暮と洛位に似る無
凡

梅

誰人魂のうすよけん
浪底岸浪のうすよけん
夏と深の麦二三寸
皮つぎに舟を吹矢残
氣のみよきこる此日
懐の骨ハッとした
る守山一五日とら

天橋

花四半 雪二ツ 月セツ 凡
も 成 現 乃 洒 子 遊 々 今

林

馬子の袖に豆魚の如く寝疲す
言泉

拳一 舟 舟 楫の羽と干す 清風

東雲の石切音 絨多るらん 同

凡 舟 折し 舟と 推の杖 水

詩と 捨 乾 雨 名 月の日と 窓 同

百里 舟 弱 乾 一ツ 戸 舟 風

同

河の白さ桔梗や菘女の塚るん
 水
 忍ひの小川 満あそく是ク
 凡
 板屋の川夏み牛の目あそ
 水
 丈シトコ九十母ウハ鳩五つもん
 凡
 六月ミナツキの始稲るる國もて
 水
 奠灯のうほはと佛いそ
 凡
 時うはれを氏侍の腹さ
 水

多塘出に寄りの下芝
 凡
 嫉チタニシの虫盃成フヨキ遊ユキゆき
 水
 幣の起し一月八ツラ暗く
 凡
 菘菜カ菊カの松の心越ヒ花ハあそ
 水
 忍ニ色シ負フふ法師あ草と出
 同
 埋ウりケ合アあやナおカ雀ノ子コ成ツつシ
 凡
 窓マのスすミこメ首ウ張トとム
 水

大和路の秋迦馬を我がの馬に
いひ齒果齒と母なる
を母見申る歌ハ鞍も腰をて
祖守ル宮ハ五所比母さげ
照くところと路の中母火の歯
蜻突賤ハ津浪と待ッ
六條も今陸奥の道絶て
凡水凡水凡水凡水凡



毛髪も如く伯父の髪と結
月乳の巻すう廟の草刈
牙ある小羊秋をけけなる
明言然山み無母も楫をき
我足袋も一冬をさる
いっかきと棺の中も是も
麦の四尺も標量水も
水凡水凡水凡水凡



花稀み江川 矢認まて
木臭み淋し 二月の山 同 凡



見れぬくは系馬がくして山梯 立志
菴乃あよみの 蕨わゆる芝 清風
春の雨石乃 笈のあまを 全
月よりかりよる 蚊のこつこつ 志
澄りよる 雲の表を 知るよる 全
白あらし 壺乃風折 凡





神之主乃氷汲む馬房のま可
 くらゐ志あるべし死骸 凡
 母親の利口跡先志と希世
 礎イレスはくんと老母ト草一と
 淡雪の雀おくり立じくよ
 日のぼるくも鐘ひく声
 三黒来く白くみく京の所
 志 凡 志 凡 志 凡 志

女房とさく次牛乃小車 凡
 恋衣假名よ侍る名の中
 指歌中きに竜田文城也 凡
 花下入身成舎りの執賣ヒ 志
 枚菜よふくまの炭竈 凡
 蟻ヒの居て汲ぬ腕の清水外 全
 心了負し一左の境界 志



破^レ矢^ニ師^ノ乞^ノ市^此園^友 凡
 棺^昇送^ル 昼^びう^うい^あき 志
 森^シく^と社^取よ^松の^凡す^を 凡
 人^乃あ^まに^とま^れ蝸 志
 さ^ゆく^乃灯^巻ん^まの^凡 志
 胴^腹を^も 稻^つ戸^の乳 志
 い^いさ^の傘^のい^のお^の下 凡

お^もひ^よ足^ぬ洞^もか^ー 志
 偽^りの^ある^世 越^後也^とれ^て 凡
 こ^の踏^角す^はの^一の^橋 志
 水^す月^ハ之^日と^宿よ^麻ぬ^夕 全
 庵^室紙^帳は^らも^むつ^し 凡
 摘^りが^ハ菟^生を^成る^れの^志 全
 夕^紫ゆ^く約^よ舞^一迎^ま志

非^ハ沼^ノ乃^ノ修^リ者^トし^ル物^ノ雨^志
茶^抄見^立よ^多竹^藪凡



東^部尔^園分^ノ
人^々之^連の中^ニは^信が^信也

一^晶

ろ^ろが^中尔^常山^ノふ^もとの^槽
花^多金^まま^にに^く江^ノ某^ハ清^風
麻^探つ^ひ奥^ノの^巻よ^人な^て全
サ^ッ日^カ色^々々^々盆^乃月^乳晶
ま^げ山^ヤ日^々し^し写^し日^々ん^全
葉^乃火^清々^々林^乃松^竹凡

砂瀝シホや瀝シホ去シ氷の落シ人
 馬シ人京シ残シ泣シ足シ去シ
 木のるシ伽ガ籃ラン煙シうシまシ
 堇スミレの奥シ乃シ簫セウと塙シ均シ
 卒シ乃シ雪シ去シ百シ日シよシ色シ去シ
 娘シあシのシをシ一シ雛ヒナと詠シえ
 菊シ少シ思シ去シ乃シ他ツキホ植シはシ花シのシ一シつシはシく
 全 全 全 全 全 全 全

川シ也シ野シ井シ乃シのシ畜チキ埋ウミ
 曙シ乃シ月シよシ片シ怖シのシ子シとシ捨シ
 寺シ佛シのシ必シはシ菊シ秋シのシ去シ
 全 全 全

十分シ乃シこシはシきシ無シ示シ
 表シあシ乃シ是シくシはシ
 一シくシをシ入シ乃シ

憎シあシんシのシ

朝月や文の梁丸きの崩るる 清風
雨ニ軟^サり 法の川一雫 筆

右百韻畧之

推十

雨乃見^ミ 門提^テしりか^カの^ノさ^サ
信徳

い^イり^リ 斯^スル^ル 麻乃^{マノ} 枝と^エ 織^{オリ} 且^ヤ 清風
曉乃^{ホト} 樟^カ木と^キ 同^ト ぬ^ヌ 經^ネ さら^サ せ 仙苑
船^{ヒラ} 檣^ラ とも^ト 月乃^{ツキノ} 川^{カハ} 隈^カ 徳
松^{マツ} 風^{カゼ} や 相^{アヒ} 撲^ツ と^ト 立^タ し 詠^{エイ} る^ル 風
柿^{カキ} 各^{オノ} ち^チ う^ウ う^ウ 磨^マ よ 朽^ク る^ル 苑

齋三

蜻蛉乃飛フさ衣に夕夕也
人燒野辺并一腕ヒナとがいと
古々乃琵琶と乃乃音音也
文一張子の佛作也
鴻接る袖乃白ひの懐一也
七日或とと也也乃侍
慮なる銀杏の奥の水の音
德 菴 凡 德 菴 凡 德

崩ま車一乃杖と也也
余所母月一字一計の音音也
家の小蓮於子育ソタツル
花吉野一京母矢救の名也
腕の也一河記録也
蛙鳴里乃あと井水とひて
人ととと乃露乃気と也
凡 德 菴 凡 德 菴 凡

物恨む女房の衣キヌささし
 依衣の松山 艶イロみ死スへき
 諸ともみ夕ユフ見成ミナ蟬セミの声コエを
 緋ヒみ童コのハ糧カと 養ウツク
 川カハ身ミ交マ隣ト垢カ離リ丸マ男ヲ
 梨リの下ノ枝エと 磔ウ打ツ音ネ
 百ヒ煙ク香ク月ツキと小コ雨アメて空カラ寂サマし
 菫 凡 德 菫 凡 德 菫 凡 德 菫

三味線法師 乳ナ母ハ為ト芳
 抱ダき切キノ歩フみハ閑ヒラ法ホウ堂ドウハ
 花ハナ乃ハ浮ウ生キのハ日ヒ言コトり
 獨ヒト活カ蕨ワ電デンのハ烟ケ絶ツくみ
 雀スズメ巢ノくハるハ岸キのハ捨ス船ネ
 駕カ薬ヤクみわハ娘メのハ不ム言コト
 をハ婆ハハひハけハとハ楯タテみハ飯イ盛セ
 德 菫 凡 德 菫 凡 德 菫 凡 德 菫

東也や四月八日の鐘まで
蕨の好待 郭一云 菴

林

汲多々如 笈年 涼む 夕止

羽別 清風

麻の梨 浸も 山笠の 浪 江戸 其角

ふかり 声も 月のお 心 同

鼻乃 乞はく 相撲ら 色く 凡

柳葉や 権とら くらん 徳と 同

京中か かる 我菊の 長 角

橋

三鳥を君の信り中引ん
日一毛より別きと海
こい建は奪^ガ取ての海並小紅
朝夕かゝる海松島乃妙
艸の戸乃丸杯かゝる女を
尿一しては麻志足音
霧やうもを方^京残翅^京導^京道^京仙^京菴^京

ゆゝ思^ウ塚^ウり^ウ萩と折^ウ良
残^ウ月^ウ誰^ウり^ウ旗^ウ竿^ウ乃^ウ朽^ウ足
不^ウ乃^ウこの^ウや^ウう^ウの^ウむ^ウ女^ウ残^ウ負^ウ妙
大^ウ晦^ウ花^ウハ^ウ人^ウ乃^ウを^ウ一^ウして
新^ウ町^ウ乃^ウ昼^ウ名^ウの^ウ茶^ウ乃^ウ菴^ウ
淡^ウが^ウみ^ウ七^ウ里^ウが^ウ後^ウ一^ウ秋^ウ遙^ウ
孕^ウり^ウれ^ウ容^ウ水^ウ一^ウや^ウ道^ウ
菴 同 凡 菴 凡 菴 凡

入相乃鐘カキナ菟菜ウサギとウサギ
 鳩の藪垣トビ謝カかカ寸
 子子振ウツいつの帝乃捨テ社
 舍利セリ捨テる雨の曙
 浅芽生乃アサやアサとアサはアサ啞ワの物モノ也ナリ
 屋ヤ盈ト人トの牛ウシ年トシ系ケイ也
 瀆トクとトクぬ石碑イシイハはハ已マり在ア銭ゼン悔カエ
 木 凡 豪 菴 凡 菴 凡

草がクサあアとト松マツの陰カゲはハ火ヒ銭ゼン焼ヤク
 あアのノ一ヒトまマのノ海ウミはハ亀カメの背セ負オ是コト
 虹切ニジキるル劔ツルギ夕ユフ月ツキ年トシ入イ
 塔タ横ヨコりリ草クサのノ志シ舊コウ乃ノ遠トウ也
 赤子アカコ乃ノ飢ウ一ヒト扶タのノ小コ長チカ風カゼ
 小雨コウズ降フ足タ張テあアとト欠カケあアのノ也ナリ
 舟フネ流ナるル中ナカ川カハのノ私シ
 凡 水 同 凡 同 水 凡

妻やがもて燕も花も好どして
凡鈴のちりき木尻の捨垣
凡 水

女系ゆりしるき

山姥よ夏も三季と志す奴

仙菴

呼鳴何き花月雪不^ハおに
亞^ア方^ハり^リめ^メる^ル六^ム十^シ乃^ノ六^ム所^{トコロ}
初陽^{ハツヨウ}乃^ノ教^ノの子^ノ牙^{キハ}も年^{トシ}當^アて
今日^{ケノヒ}のう^ウ津^ツの世^ヨもと^トり^リる^ル若^{ツケ}
多^タ成^ナり^リく^ク空^{カラ}乃^ノ桂^{ケイ}と^ト枝^エ折^セ外^{ソト}
萩^{ハギ}踏^{フミ}音^ネ池^{イケ}水^{ミヅ}あ^アや^ヤう^ウま^マ
菴 凡 菴 公 清 凡

橋

施餓鬼衆女ニ一髪とまニさニそニ凡
別ニまニ成ニ和ニるニ 賜モス乃ニ曙ニ菴
十ニ才ニ途チニダ成ニ少ニさニくニ 虚カラ車ニ凡
らニうニ〜ニあニめニ〜ニとニ松ニのニ根ニかニへニとニ菴
日ニ乃ニ夕ニ御ニ湯ニのニ絶ニるニ金ニさニびニ凡
峰ニいニ〜ニ川ニよニ 富士ニをニ見ニ隠カクとニ菴
彌ニ私ニ乃ニ風ニ〜ニ〜ニ絲ニをニ懸ニるニ〜ニ凡

雨ニ乃ニ〜ニ月ニよニ 衆フクロとニ〜ニ凡
凌ニまニ〜ニ〜ニ乃ニ衣ニのニ〜ニ凡
牡丹ニのニ移ニのニ消ニ〜ニ林チ木ニ無ニ菴
奈ニ良ニのニ京ニ極ニ〜ニ〜ニ〜ニ凡
水ニとニ腕ニのニ 碓イシ〜ニ〜ニ凡
鋤ニ乃ニ〜ニ〜ニ蛙ニハニ〜ニ〜ニ凡
也ニ百ニ色ニ乃ニ金ニ利ニ乃ニ百ニ粒ツブ凡

まはつて、
子成つて、
雨乞乃かへ、
陸一、
十二年、
去あ、
小敷の、
磯一、
茂、
青、
麻、
男、
大、
美、

あはつて、
子成つて、
雨乞乃かへ、
陸一、
十二年、
去あ、
小敷の、
磯一、
茂、
青、
麻、
男、
大、
美、

實^ニ極^クき^ニ花^ハ園^ニは^ニ鐘^ヲり^ん 菴
崇^スき^ニ山^ノ雀^ノの^ニ杯^ヲく^ニ足^ヲり^ん 凡

青^ク柳^ノよ^ク鶉^ノの^ニ聲^ヲき^くぐ^ニ夕^ノ外

調和

移^ル荷^ノ人^乃乃^ク帰^ルの^ニ京^ノ 凭^ル

曉^ニ月^ノ燈^ノの^ニ松^ノを^ニ踏^ク消^シて^テ 全

榮^ノの^ニ戸^ヲき^くひ^る 大^ニ途^也 和

烟^ヲと^りて^テ巾^ヲと^り風^ヲを^ニ思^フひ^る 全

珠^ノを^ニ罌^ノよ^ク山^ノ近^クく^ニあ^らわ^す 凡

調和

本并珍しの記と書きくく張
 燈のきよ世と捨一素
 中くよぬき衣きく次月の奥
 身よさくくよ埋本の和
 折、節の芦火くく屋は襦り也
 佛一の像と定よ切つけ
 曉の蝙蝠をまこれい〜〜〜
 和 凡 和 凡 和 凡 和

女と負て流とえん〜と
 恋志くぬ草おハ草と折ツテる
 右さ首く〜花う日度小
 蝶おれむ口と揃る池の雞
 空駕カケ勢シラ捨て眠る陽炎
 人りく親死ぬ傳と月めが
 心念らえ僧の山よ入は
 和 全 凡 和 凡 和 凡

蚊の迹の志焚け煙うら遠し
京乃草鞋ととつと松の井
不破の関越ス日計ハ冠是て
急て整りし阿闍梨呼び
夕顔の種とる比はなりまきり
深山ハ割刺を削ル秋風
書と撥ハ月浣るこは起るぬ
和 凡 和 凡 和 凡 和 凡

是石拾ふん波乃象浮
きよふと乃命ハ孫ハ巻良
火燧ハ近き高乃橋
まてぬ夜の障子ハ焼け
實とるもる花のうら泣
去乃日ハ晴ハ川流のさぬ
松とあつと月乃ち
和 凡 全 凡 全 和 凡 和 凡

花さけ花かきさうらひ孫安て
雨暖了 風のりよく 凡

一三

京寺町二条上丁

井筒屋

筒井庄兵衛重勝行

彦

言

